
BL小説（仮タイトル）

ぱあぶる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

BUSHI 小説（仮タイトル）

【NNコード】

NO1640

【作者名】 ぱあふる

【あらすじ】

「BUSHI 小説（仮タイトル）」の登場人物紹介ページです。

登場人物紹介

→ ヘヘ登場人物紹介ヘヘ

原田圭
はらだい

本編の主人公。奏多に恋している。金持ち一家の一人息子で、将来は親の会社を継ぐ予定。過去に、撫子と何らかの交流があつたが……

倉本奏多
くらもとかなた

本編の主人公。当初は圭を手駒として見ていたが、現在は恋をしている。何かとモテる。

「会社編」では、圭の会社に勤め、その後麗子と付き合うが……

滝ヶ崎麗子
たきがさきれい

奏多を狙う怪しい女性。都茂子、真理など、多くの人物を手下にし、巧みな技術で圭と奏多を追い込んでいく。

滝ヶ崎都茂子
たきがさきともこ

麗子の姪。気づかぬうちに麗子の手駒として扱われているが、本人は気づかない。

高校時代から恋をしている奏多を狙い、邪魔な圭を殺そうと目論むが……

植平真理
うえひらまつり

圭の元カノ。トモコの後輩で、奏多を手に入れる作戦のために無理やり協力させられている。

撫子
なでし子

ロンドンに留学している圭の幼馴染。圭に恋している。ヤンキーで、恋のライバルには容赦無い。

プロローグ（前書き）

クリックありがとうございます。

この物語には、15歳未満の方にはふさわしくない表現、BL要素が含まれています。

苦手な方、15歳未満の方は、すぐにブラウザの戻るボタンを押してください。

それでは、「BL小説（仮タイトル）」始まります。

プロローグ

「あつ……んつ」

甲高いあえぎ声がオフィス中に響く。夕方の会社、そこで男女はひたすらに体を重ねる。

「麗子さ……つ……口口、気持ちイイ?」

「あつ、奏多クンやめつ……あ……あん……ハア」

二人の行為が終わりに差し掛かった頃、男は女の隣で独り言の様にこう呟いた。

「……圭」

その名前を聞いたとたん、女麗子の顔は強張った。しかし、麗子は表情とは裏腹に、後悔の渦に飲み込まれていた。

そう、二年前のあの日　あの日に、あのような突き放し方をしなければ。

あの頃麗子は、人事課の課長として忙しい日々を送っていた。彼女はその日も残業で、たった一人で会社に残っていたハズだった。あの瞬間、あの場所で見たモノ……それは、麗子の中に眠る性癖を目覚めさせ、新しいオモチャを与えた子供の様に、目を爛々と輝かせた。その目は人を魅了する物であり、それと同時に恐怖を与える物でもあった。

現在、奏多は麗子に甘い言葉を囁いてくれる。テクニックだつて豊富にある。会社にだつてバレていない。それに、麗子は奏多を愛してる。部下としても、友人としても、恋人としても。欲しい物は何だつて昔から揃つていた。しかし、ただ一つだけ手元に無いモノ……それって何?

相手の男の地位?お金?……いや、そんなモノは必要無い。そんなモノより一番大切な何かを自分が手に入れていい事を麗子は理

解していた。そして、それが何のかもとっくに分かっている。でも、考えるだけで己はどれだけ酷な事を……と、その先にどうしても進めなかつた。

ビルの三階。清潔感漂う、白い空間。その場所は、彼にとつてただ一つの幸せを感じ取れる場所だつた。

倉本奏多。
くらもとかなた

まだ二十五歳という若さの青年は、当時、全てをとある女性に託していた。

窓の外を眺めながら、奏多はある事を思い出していた。

それは五年前のあの日あの夜の出来事。あれは、奏多にとつて思い出したくない過去の出来事。

一生忘れない、いや、忘れない、しかし忘れる事のできない過去。それは、奏多だけでなく、麗子も同じ。麗子も、忘れないのに忘れない、過去の出来事。

奏多は、フツと首を横に振つて、何も考へないことにした。

思い出したくない。それなのに頭の中から離れない、あの人の顔が。

1 → 出会い → (秦多 side)

「あの、倉本先パイ……ですよね？」

「そうだけど、何」

「ず、ずっと好きでした！」「これ……受け取ってください……」

「ありがとう、これ、頂くね」

本当の恋つて、なんなんだろ？

「うやつて、俺を好きだという女は余るほどいる。けど、それは本当か？」

俺に振られたら、ここからはまた新しい恋を探すだろう。
どうせ恋愛なんて、たった一時の心の迷いに過ぎないのだろう。た
だ、それだけの話だ。

人間なんて、俺にとつてはただの手駒。俺が有意義な時間を過ごす
為の道具^{バシリ}に過ぎない。

だが、最近尺に障る奴がいる。一年の原田圭^{はらだい}。男の癖に男にモテて、
認めたくは無いが俺より人気がある。

たかが手駒が俺の上に立つなんて許せない。潰してやる。

たつたそれだけの理由で圭に近づいた。

……それだけの理由のハズだった。

俺は圭に先パイとして優しくしてやった。案の定、奴は俺の腰に引
つかつた。

「秦多先パイ！」

朝っぱらから……つるせえなあ、オイ。

「ああ、おはよう」

貼り付けた爽やかな笑顔を圭に向ける。

「めア、圭といふと、他の奴らも俺の手駒にしやすくなる。」

「秦多クンと圭クンが並んだと、本当美男……ツて感じでいいよねえ～！ もお、『ご飯三杯はいける！』

「だよねえ～！…」

いつもと変わらず、女子共（）の場合は、腐女子共と書いたほうがいいのだろうか）が騒いでいる。

「本当ですよね、先パイかつこいいですよね」

圭は、毎度毎度その話に乗つかる。

「なんでお前まで……というか、圭は教室に早く戻れ。次、体育だろ。着替えないとヤバいんじゃねえ？」

「よく覚えてますね先パイ！ 僕、感動しちゃいましたあ！ グスツ」

「やだあ～圭クンかわいい～」

おいおい、何涙目つくつてんだ。お前らも、何甘やかしてるんだ。

「おい急げ！ 先パイに迷惑かけていいとでも思つてるのかよ」

「はい、わかりました！ ではまたツ！」

つたく……圭は何考えてんだか……あいつの考えが一つも読めない。奴は俺の手駒……いや、玩具。それだけでいいのに。いちいち俺よ

り上なの見せつけて田障りだ！

どうもこいつの考えていることは分からぬ。いや、ヒーリング分かりたくない、かな。

俺はため息をつき、小走りで教室へと向かった。

……あの時はまだ思つてもいなかつた。まさか圭と俺が、あんな事になるなんて……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0164o/>

BL小説（仮タイトル）

2010年10月11日00時46分発行